

<サロン9条> 第339回例会 (2019.9.24)

テーマ：「韓国ツアー《ろうそく革命の源流を訪ねて》に参加して」 16名

話題提供：白井雅子さん（長森・日野九条の会）

白井さんは今年1月に韓国ツアーに参加され、光州とソウルの民衆の闘いの跡を訪ねるコースを回られました。国立墓地では事件を記録したDVDを鑑賞し、こうした事を知らなかったことに衝撃を受け、日本人たちも知る人は少ないのではと思い、DVDを分けて欲しいと願うとプレゼントされたとのこと。皆さんに是非見てほしいということで、はじめに「光州民衆抗争」のDVD（45分）を皆さんで鑑賞しました。

光州事件は1980年5月18日から27日にかけて全羅道（チョルラト）・光州市を中心として起きた民衆の反政府蜂起で、学生をはじめ市民のデモは約20万人にまで増え、全権をにぎる軍が市民を暴徒と見なし銃弾をあびせました。前年の朴正熙大統領暗殺後、全斗煥が軍事クーデターにより実権を掌握、全国に戒厳令が敷かれた。その中で民主化を求める大規模デモ「ソウルの春」が闘われ、決行された学生デモ鎮圧に陸軍空挺部隊が投入され、一斉射撃が始まると市民は武装して対抗し、全羅南道庁を占拠。多くの市民が犠牲になりました。そうした生々しい事件の様子動画が写しだされました。

1987年には大統領の直接選挙を求める民主化運動が闘われる中で、ソウル大学生の警察による拷問死や催涙弾の直撃死が起こり、抗議と民主化を要求する大規模デモがソウル市、地方にも広がり、全斗煥大統領は直接選挙を受け入れました（6.29宣言）。軍事政権のもとで学生・民衆の幾多の大衆的抗争の歴史の上に民主化は築かれ、1997年、政府主催の5.18記念式典で、光州事件犠牲者の名誉が回復されました。

DVDの観賞後、白井さんは“近い国なのに韓国のことを何も知らなかった”と述懐され、今日の日韓関係をどうしていけばよいのか皆で考えたい、と問題提起され、参加者の中で訪韓された人も多く、さまざまな意見交換をしました。

*訪韓で触れあった人たちの感想に、今日の日韓関係のこじれで通訳の仕事がなくなったということも聞いた。来日の韓国人が半減する中、若い人たちはこだわり無く訪韓する人は多い。年輩者は先入観で格差を想像するが、韓国の実態は発展がすさまじく、5年もすると日本は韓国に追い越されるのではないかと思う。

*レジメは戦後の経過のみだが、戦前の日本の戦争犯罪があまりに教えられていない。韓国に行った時、今は博物館だが、かつての占領下の刑務所を見て反省の至りだった。通訳の方とか、戦時中日本で教育を受けた人の流ちょうな日本語に感銘した。

*アジア・太平洋戦争が終わって混迷し、反政府運動や流血の戦いがあったが、韓国の自然に接すると自分の原風景を見てる気がする。日本では、ひどい政治情勢に何で怒らないのか？ 日本社会は、長いものに巻かれろ主義で、奴隷精神では。

*韓国へは5・6回行っている。戦前、日本は朝鮮を併合し植民地支配した。強制連行に触れて、館長に言われた。「安倍を倒し、憲法を守ってください」と。

*昔になるが、下町で過ごし朝鮮の人たちとの交流の機会があった。そんな中で自分には日本人としての主体意識はないが、彼らは朝鮮人としての自負を強く持っていた。戦前にも徳富蘆花など真実の叫びをした先人達が多くいた。日本の若い人たちの叫びを自分のものとして受け止めねば。

* 韓国では戦跡に子どもたちが引率され、訪れている。歴史について教育がされているんだと思う。

* 交流しているが、きれいな日本語を使う人びとがいる。原爆投下を肯定する返答をした人がいたが、根底には植民地時代の屈辱は受け継がれている。無かったことにして「未来志向」と言っても駄目。

* なんとなく自分の生活が安寧なら良いと思う若者が多い。安倍政権がメディアの操作をしていると思うので、声を上げていかねばと思う。

このように参加者から多くの発言がありました。最後に白井さんから、本日のお話のまとめとして、「今日の政府は戦前、朝鮮を植民地化し併合したことを正当化している。自分は治安維持法犠牲者の国家賠償運動に参加しているが、政府はいまだ弾圧で犠牲になった人々の賠償をしていない。韓国では民主化を闘い、政権支配者は“北の扇動”と言ってきたが、弾圧してきた支配者が裁かれ、犠牲者の墓地が整備され名誉回復がされてきた。私たちは韓国に学んで、今日まで70年余にわたって現行憲法を守ってきた力を、若い人たちと協力して造っていきましょう」と締めくくられました。